

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 第38回通常総会
- 会員異動
- 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改定3版2012」出版のご案内
- 会員情報の点検と更新のお願い
- 学会関連カレンダー

**本会記事****平成24年度第4回常任評議員会議事録**

日 時：平成25年2月9日（土）12:00～17:00

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員 計13名（欠席1名）

議 事：

**I. 平成24年度第3回常任評議員会議事録の確認****II. 経過報告および議事****1. 財務関係**

- ・平成24年度収支について報告があり，収支計算書の内容を確認した。
- ・平成24年度会計の監査を2月28日（木）に学会事務局において実施する。
- ・平成25年度予算案が提示され，その内容を検討した。

**2. 編集委員会**

- ・平成25年2月2日に開催された第183回常任編集委員会の議事内容が紹介された。（後出の常任編集委員会議事録参照）

**3. 環境委員会**

- ・残留農薬分析セミナー2012の開催結果について報告があった。参加者数は，第1回（実験つき）が29名，第2回（実験なし）が30名であった。
- ・埼玉県農林部農産物安全課主催の「農業指導マスター認定・更新研修会」（平成25年1月21日開催）に石井英夫氏（農業環境技術研究所）を講師として

派遣した。

- ・「残留農薬分析 知っておきたい問答あれこれ改訂3版2012」を平成24年12月1日付で刊行した。価格は2,500円，出版部数は1,500部。これに伴い，学会ホームページ「残留農薬分析Q&Aコーナー」を休止する。
- ・「問答あれこれ」の出版を記念し，平成25年度に数回，「残留農薬分析Q&Aセミナー」を開催することが提案され，これを承認した。平成25年3月22日（金）に東京家政大学にて第1回目の開催を予定している。

**4. 将来計画委員会**

- ・前期将来計画委員会による将来計画の答申内容のうち，大会の活性化および広報のあり方について今期執行部下での作業の総括がなされた。

**5. 日本農学会関連**

- ・平成24年12月13日に開催された平成24年度第3回運営委員会の議事内容が報告された。
- ・平成25年1月25日に開催された評議員会の議事内容が報告された。
- ・平成25年10月5日に「農学イノベーション—新しいビジネスモデルと食・農・環境における技術革新」をテーマにシンポジウムを開催する。
- ・平成25年度農学賞が決定した。

**6. 国際会議関連**

- ・2014年に開催予定の第13回農薬化学国際会議（サンフランシスコ）の進捗状況について報告があった。

**7. 入退会の報告（平成24年11月16日～平成25年1月30日）**

- ・入退会が承認された。入会は正会員27名，学生会員14名，海外会員1名，団体会員1件。退会は，終身会員2名，正会員8名，学生会員1名，団体会員1件。

**8. 会員情報管理システムについて**

- ・平成25年4月より運用を予定している会員情報管理システムの作業進捗・ページデザインの報告があった。

**9. 名誉会員，終身会員，顧問の推薦報告**

- ・会長が指名する3名の顧問を承認した。今後，評議

員会の承認を経た後、委嘱する。

- ・名誉会員として8名を評議員会に推挙することを承認した。今後、評議員会の義を経た後、総会の承認をうける。
- ・終身会員として3名を評議員会に推薦することを承認した。
- ・名誉会員の推薦手続きの明確化について提案があり、今後継続して検討することとした。

#### 10. 次期役員について

- ・会長が指名する2名の副会長、20名の評議員および10名の常任評議員を確認後、承認した。今後、評議員会の承認を経た後、委嘱する。

#### 11. 大会関係

- ・第38回つくば大会の進捗状況、予算等について報告があり、準備が順調である旨紹介された。
- ・つくば大会での常任評議員会、編集委員会、第39回評議員会のスケジュール、進行および会場について確認した。
- ・第38回通常総会用資料を検討した。
- ・第39回大会の予定について報告があった。

#### 12. その他

- ・学会ホームページ上に求人コーナーを設ける。ただし、その利用は利用者の責任によるものとする。

### III. 平成25年度農薬科学研究補助金交付者選考二次審査

- ・平成25年度農薬科学研究補助金交付者選考一次審査の結果が報告され、審査内容を確認した。一次審査でのスコアの上位3件に対し二次審査を行い、以下の交付課題2件を決定した。

山本幸治氏（九州大学大学院）：ステロイド還元酵素構造情報を礎とした昆虫成長阻害剤の創製基盤  
春原由香里氏（筑波大学生命環境系）：オーキシシン型除草剤キンクロラックの作用機構の解析

### 平成24年度第5回常任評議員会議事録

日 時：平成25年3月13日（水）12:00～14:00

場 所：筑波大学総合研究棟A107プレゼンルーム

出席者：会長・副会長・常任評議員 計13名（欠席1名）、松本大会組織委員長、次期役員8名がオブザーバー参加

議 事：

#### I. 平成24年度第4回常任評議員会議事録の確認

#### II. 経過報告および議事

##### 1. 大会関係

- ・第38回つくば大会の準備状況について大会実行委員長から報告があった。
- ・第39回評議員会の資料および進行について確認した。

- ・第38回通常総会の資料および進行について確認した。

#### 2. 財務関係

- ・平成24年度収支について総会資料の内容を確認した。
- ・平成24年度会計の監査が平成25年2月28日に実施され、監査の結果、事業報告および決算が的確であった旨報告があった。
- ・平成25年度予算案について総会資料の内容を確認した。

#### 3. 編集委員会

- ・英文誌と和文誌の分冊化および電子ジャーナルの公開状況の説明があった。
- ・第37巻への投稿・掲載状況について報告があった。
- ・電子投稿システム（EM）に類似性検出のためのクロスチェックツールを導入した。

#### 4. 環境委員会

- ・残留農薬分析セミナー2013および残留農薬分析Q&Aセミナーの開催を予定している。
- ・「残留農薬分析 知っておきたい問答あれこれ 改訂3版 2012」を平成24年12月1日付で刊行した。

#### 5. 将来計画委員会

- ・前期将来計画委員会による将来計画の答申内容のうち、今期執行部下で取り組んだ大会の活性化および広報のあり方について今後の課題を含めて総括がなされた。

#### 6. ホームページ委員会

- ・リニューアルとなった会員情報システムを平成25年3月7日に公開した。
- ・学会誌の分冊化に伴い、学会誌掲載論文の公開Webページをリニューアルした。

#### 7. 学会賞受賞者選考委員会

- ・平成25年度学会賞受賞者選考委員会の審査状況について紹介があった。

#### 8. 日本農学会関連

- ・平成25年3月11日に開催された平成25年度第1回運営委員会の議事内容が報告された。次回運営委員会は平成25年9月10日。
- ・平成25年度評議員会は平成26年1月24日に開催予定である。

#### 9. 国際会議関連

- ・2014年に開催される第13回農薬化学国際会議（サンフランシスコ）の進捗状況について紹介があった。

#### 10. 研究会の協賛について

- ・平成25年11月7日（木）～8日（金）に関西学院会館（兵庫県西宮市）で開催予定の第41回構造活性相関シンポジウムを協賛することを承認した。

#### 11. 入退会の報告（平成25年2月1日～平成25年2月28日）

- ・入退会が承認された。入会は正会員12名、学生会

- 員1名、退会は正会員11名。
12. 学術小集会委員長について
    - ・平成25年度学術小集会委員長を確認した。
  13. 来期の執行部体制について
    - ・第20期執行部メンバーおよび各役割分担を確認した。
  14. 次回農薬学会大会について
    - ・第39回大会の予定について三芳大会組織委員長より報告があった。平成26年3月13日(木)~15日(土)に京都大学(京都府京都市)において開催する予定である。
  15. その他
    - ・平成25年度常任評議員会の開催予定：平成25年4月27日, 7月27日, 9月7日, 11月30日, 平成26年2月8日, 3月12日。

### 第183回常任編集委員会議事録

日 時：平成25年2月2日(土) 13:30~17:00  
場 所：東京農工大学 大学院BASE本館3階会議室  
出席者：10名、欠席3名  
経過報告および議事内容

1. 投稿・審査状況について報告があった。第37巻の掲載論文数は英文83編、和文3編であった。
2. 「JPS誌」第38巻2号の審査状況および掲載内容を確認した。なお、1号は2月20日にWeb上で公開する。
3. 「農薬誌」第38巻1号の掲載記事を確認した。
4. 投稿細則およびInstructions for Authorsの修正について検討した。今後、編集委員会で承認を求める。
5. J-Stage意見交換会(1月17日開催)の参加報告。
6. 投稿論文の類似性検出のためのクロスチェック機能の利用を開始した。
7. 「農薬誌」掲載記事のWeb公開について検討した。1号の掲載記事は8月に公開する。会員向けには、雑誌発行後、可能な限り速やかにWeb上でも閲覧可能とするように検討する。

### 第39回編集委員会議事録

日 時：平成25年3月13日(水) 14:15~15:45  
場 所：筑波大学総合研究棟A111 ゼミ室  
出席者：23名

議 事：

#### I. 経過報告

1. 2012年以降の掲載状況、投稿審査状況
  - ・2012年の投稿論文は、JPS 83編(国内22編、国外61編； 報文58編、ノート16編、速報1編、技術

資料1編、総説7編)、農薬誌3編(報文1編、短報1編、総説1編)であり、国外からの投稿は中国(26編)、インド(7編)、イラン(4編)、パキスタン(3編)、台湾(3編)などの国の研究者による。2013年の投稿論文(3月3日まで)は、JPS 14編、農薬誌2編である。

#### 2. ダウンロード状況

- ・2009年以降、全文のダウンロードは月平均2500件を越えている。

#### 3. 英文誌と和文誌への分冊化

- ・2013年(平成25年)38巻より、英文は「Journal of Pesticide Science」(略称：JPS)、和文は「日本農薬学会誌」(農薬誌、Japanese Journal of Pesticide Science)として分冊化した発行を開始した。農薬誌1号は2月20日、2号は8月20日発送、JPSはNo. 1およびNo. 2の合冊版を5月20日、No. 3およびNo. 4の合冊版を11月20日発送とする。JPS No. 1およびNo. 3の発行はそれぞれ2月20日と8月20日とし、掲載論文は、ページ番号を付し、これまでと同様それぞれの発行日にJ-Stageおよび学会ホームページ上で本公開する。

#### 4. 電子ジャーナル、電子投稿システムに関して

- ・38巻より、書誌情報ならびに全文情報ともにXML形式(Full-J XMLタイプ)での掲載に移行した。
- ・J-stage 3への移行に伴い公開が滞っていた28巻(2003年)以降の和文記事のpdfファイルを順次アップロードするとともに、発刊半年を経過した和文記事は非会員も自由に閲覧できるよう公開した。
- ・EMでの電子投稿システムに剽窃チェックツール(CrossCheck)を導入した。
- ・今期も4名の担当編集委員体制で審査を行う。

#### 5. 読み物企画に関して

今後の掲載予定は以下のとおりである。

- ・実験技術講座：QSAR編 [Vol. 38, No. 1 (2013) ~ Vol. 39, No. 1 (2014)]
- ・解説：「日本の農薬登録におけるガイドラインスタディとMOA研究のあり方について」、「遺伝子組換え植物の開発利用の現状と今後」、「作物のストレス耐性機構解明研究へのプロテオミクス技術の利用」など。
- ・ミニレビュー：「農薬の抵抗性研究の最前線」、「農薬製剤・施用法の歩みと今後の展望」(大会シンポジウムより)
- ・「近年の農薬開発」および「化学物質の関連法規」のシリーズについて検討中である。

#### II. 議事

##### 1. 編集規定などの改正

- ・英文誌と和文誌への分冊化に伴い、JPSの

「INSTRUCTIONS FOR AUTHORS」と農薬誌の「投稿細則」の変更を検討し、2013年3月13日付で改定した。

## 2. 将来構想

以下の2点を検討した。

- ・印刷物の発送は希望者のみ：紙媒体の配布を望まない会員には、発送しないですむシステムを作る（会則の変更）。ただし、当面は学会費の減額はしない。
- ・印刷発送回数の削減：将来的な紙媒体の廃止を検討する。

## 3. その他

- ・投稿論文のカラーページに関して：ウェブ公開のpdfに関しては無料であるが、紙媒体への印刷代の著者の負担も軽減することを検討した。

## 第39回評議員会議事録

日 時：平成25年3月13日（水）16:00～17:20

場 所：筑波大学総合研究棟A110 公開講義室

出席者：宮川会長、浅見副会長、瀧口副会長、佐藤副会長、千野監事、評議員39名、委任状28通（合計71名）

出席者が定足数に達していることを確認したのちに会則第29条に則り宮川会長を議長として議事を進行した。

議 事：

1. 平成24年度会務報告
  - ・第38回通常総会資料および第39回評議員会資料に基づき、総務・編集・渉外・学会賞選考および役員選挙の各項目について委員長または担当常任評議員が報告を行い、質疑を受けたのち、異議なく承認された。
2. 平成24年度会計報告
  - ・第38回通常総会資料に基づき、収支決算について担当常任評議員が報告を行ったのち、千野監事から会計監査の結果、収支決算の内容が的確であった旨報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、異議なく承認された。
3. 平成25年度事業計画
  - ・事業計画案および収支予算案について担当常任評議員が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。
4. 会長指名による役員を選出について
  - ・会長より指名された副会長2名および評議員20名が

承認された。また、会長より顧問として指名を受けた上路雅子氏、梅津憲治氏、米山勝美氏が承認された。

## 5. 名誉会員および終身会員の推薦について

- ・名誉会員として安部浩氏、松村文夫氏、中津川勉氏、榎橋敏夫氏、西村勁一郎氏、大川秀郎氏、若林攻氏、山口勇氏が推薦され、承認された。これを受け、第38回通常総会において承認を求める事とした。終身会員として岩本毅氏、鈴木敏雄氏、上野民夫氏が推薦され、承認された。

## 6. 第39回大会について

- ・第39回大会を平成26年3月13～15日に京都大学（京都市）において開催することが承認された。

## 第38回通常総会議事録

平成25年3月14日（木）午前9時45分より、筑波大学・大学会館ホール（茨城県つくば市）において、第38回通常総会が開催された。会則第24条に則り宮川会長を議長として議事を進行した。

議 事：

1. 平成24年度事業報告および決算報告
  - ・総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目について各担当者が報告を行った。次いで、収支決算について会計担当者が報告を行ったのち、竹内監事から会計監査の結果、収支決算の内容が的確であった旨報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、異議なく承認された。
2. 平成25年度事業計画および収支予算について
  - ・事業計画案および収支予算案について各担当者が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。
3. 名誉会員の承認について
  - ・名誉会員として安部浩氏、松村文夫氏、中津川勉氏、榎橋敏夫氏、西村勁一郎氏、大川秀郎氏、若林攻氏、山口勇氏が推薦され、承認された。
4. 終身会員および顧問の推薦について
  - ・第39回評議員会において終身会員3名および顧問3名が承認された旨報告があった。
5. 第39回大会について
  - ・第39回大会を平成26年3月13～15日に京都大学（京都市）において開催することが承認された。



資料:

I 会務報告

1. 総務関係報告

1) 会員異動 (平成24.1.1～平成24.12.31)

	平成23年	平成24年12月31日現在			増減 (△減)
	12月31日 現在	国内	国外	計	
名誉会員	18	16	1	17	△1
終身会員	54	52	2	54	0
正会員	1181	1117	19	1136	△45 <sup>a</sup>
学生会員	42	40	0	40	△2 <sup>b</sup>
維持会員	38	38	0	38	0
(口数)	(75口)	(75口)		(75口)	0口
団体会員	91	88	0	88	△3
購読会員	44	9	31	40	△4

<sup>a</sup>入会者: 49名, 退会者: 40名, 会費未納者: 54名

<sup>b</sup>入会者: 20名, 退会者: 9名, 会費未納者: 13名

2) 会誌の発行

発行および頒布部数 (平成24.1.1～平成24.12.31)

巻-号	37-1	37-2	37-3	37-4
発行部数	1570	1570	1520	1520
会員頒布	1384	1384	1384	1384
一般購読	40	40	40	40
寄贈	27	27	27	27
広告・PR	10	10	10	10
事務用	2	2	2	2
保存用	5	5	5	5
計	1468	1468	1468	1468
残存部数	102	102	52	52

3) 日本農薬学会第37回大会

- (1) 第37回大会: 平成24年3月14日(水)に岡山ロイヤルホテルにおいて, 総会, 学会賞授賞式, 受賞講演(奨励賞1題, 業績賞(研究)2題, 業績賞(技術)2題), 特別講演会(2題)が行われた。翌3月15日(木)～16日(金)には岡山大学一般教養A棟において, 平成23年度受賞者講演(奨励賞2題, 業績賞(研究)2題), 一般講演(98題), シンポジウム(2

件), ランチョンセミナー(2件), 技術士試験対策セミナーが行われた。参加者総数は431名であった。

- (2) 第37回通常総会: 平成23年度会務報告, 会計報告, 会計監査報告および細則・規定の改定, 終身会員の推薦の報告が行われ, 平成23年度事業報告および決算, 平成24年度事業計画および収支予算(案), 会則の改定, 日本農薬学会大会第38回大会(平成25年, 茨城県つくば市)の開催が承認された。また, 平成23および24年度日本農薬学会賞(奨励賞, 業績賞)および論文賞の授賞式が行われた。(24.3.14)

4) 役員会の開催

- (1) 第38回評議員会: 平成23年度会務報告および会計報告が行われ, 平成24年度事業計画および収支予算(案), 会則・細則・規定の改定, 終身会員, 日本農薬学会大会第38回大会(平成25年, 茨城県つくば市)の開催が承認された。(24.3.13)
- (2) 常任評議員会: 5回(24.5.26, 9.8, 12.1, 25.2.9, 3.13)

5) 専門委員会など

- (1) 第39回編集委員会: (25.3.13)
- (2) 常任編集委員会: 4回(24.4.28, 8.3, 10.27, 25.2.2, 内1回は読み物企画委員との合同会議)
- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会: 1回(24.10.6), メール会議数回
- (4) 財務委員会: メール会議数回
- (5) 第38回大会組織委員会: 3回(24.6.8, 10.2, 25.3.7)
- (6) 将来計画委員会: メール会議数回
- (7) 環境委員会: 2回(24.6.20, 25.1.23)
- (8) HP委員会: メール会議数回
- (9) 選挙管理委員会: 3回(24.6.13, 9.28, 11.8)
- (10) 学術小集会委員長と常任評議員との懇談会: 1回(24.9.8)
- (11) 三学会長懇談会: 1回(24.11.22)
- (12) 日本植物防疫協会と三学会との懇談会: 2回(24.9.6, 11.22)

6) 技術士育成推進委員会

- 1回の委員会が開催された(24.9.3)。

## 2. 編集関係報告

### 1) 掲載原稿数および頁数

巻号	種類	掲 載 原 稿 数								頁 数	
		報文	短報	速報	技術資料	Review・解説	受賞論文	その他	計		
37-1	英文編	7	5		1	1		1 <sup>a</sup>	15	99	
	和文編							6 <sup>b</sup>	6	28	
	会報							2 <sup>c</sup>	2	28	
37-2	英文編	5	3					2	11	56	
	和文編	1			1	1		2	10	52	
	会報							5 <sup>e</sup>	1	40	
37-3	英文編	4	1					3	9	35	
	和文編					1		4	9	38	
	会報							4 <sup>g</sup>	1	13	
37-4	英文編	3	3						6	42	
	和文編					1		15 <sup>h</sup>	16	74	
	会報							2 <sup>i</sup>	2	14	
小計	英文編	19	12		1	1		5	41	232	
	和文編	1			1	3		6	41	192	
	会報							6	6	95	
合計		20	12		2	4		11	39	88	519

a: Acknowledgments.

b: 英文編掲載論文和文要旨, 実験技術講座, シンポジア2編, 第36巻掲載論文審査員への御礼, 受賞お知らせ.

c: 大会案内を含む.

d: Instructions for authors.

e: 英文編掲載論文和文要旨, 実験技術講座, シンポジア3編.

f: Acknowledgments.

g: 英文編掲載論文和文要旨, 実験技術講座, 書評, 2011年投稿論文審査員への御礼.

h: 英文編掲載論文和文要旨, 実験技術講座, ミニレビュー10編, Keyword Index, Author Index, Contents of Volume 37.

i: 大会案内を含む.

### 2) 論文賞

候補1件を, 学会賞受賞者選考委員会に推薦した.

Authorsの一部を改正した.

### 3) 電子ジャーナル (J-STAGE)

J-stage 3への移行に伴い公開が滞っていた28巻(2003年)以降の和文記事のpdfファイルを順次アップロードするとともに, 発刊半年を経過した和文記事は非会員も自由に閲覧できるよう公開した. EMでの電子投稿システムに剽窃チェックツール(CrossCheck)を導入した.

### 5) その他

- (1) 受付論文数(2012年): 英文82編, 和文3編
- (2) 学会誌インパクトファクター(過去5年間の平均値): 0.836
- (3) 電子ジャーナル掲載論文の月平均ダウンロード数: 約3,000件

### 4) 英文編と和文編の分冊化

英文編は「Journal of Pesticide Science」, 和文編は「日本農薬学会誌 (Japanese Journal of Pesticide Science)」として発行を開始した. 分冊化に伴い, 投稿細則とInstructions for

### 3. 渉外・企画関係報告

#### 1) セミナーの開催

残留農薬分析セミナーの開催: 東京都多摩市(24.10.26), 東京都小金井市(24.12.5).

## 2) 農業科学研究補助

農業科学研究に対する研究補助金（1件50万円）を平成24年度は以下の2件の研究に対し交付した。

- (1) 岩上哲史氏（京都大学農学研究科）：多剤抵抗性タイムピエにおける除草剤抵抗性に関わる cytochrome P450 遺伝子の同定
- (2) 野下浩二氏（秋田県立大学）：カメムシ臭気成分を利用した昆虫飛翔筋プロリン代謝阻害メカニズムの解明

## 3) 書籍の発行

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ 改訂3版2012」を発行した。

## 4) 学術小集会

- (1) 農薬残留分析研究会（第35回）：榎原ロイヤルホテル（奈良県橿原市）で開催。「残留農薬分析に関わる標準品および試薬類の品質管理について」をテーマにシンポジウムを開催した。シンポジウム講演5題、特別講演1題、ポスター21題（6題については口頭発表も実施）の発表が行われた。参加者は約240名であった。（24.11.8～9）
- (2) 農薬製剤・施用法研究会（第32回）：神奈川県立県民ホール（神奈川県横浜市）で開催。特別講演3題、技術研究発表10題、フォーラム1題、ポスター7題の発表が行われた。参加者は279名であった。（24.9.27～28）
- (3) 農薬環境科学研究会（第30回）：マロウドイン熊谷（埼玉県熊谷市）で開催。「農薬の土壌中における挙動と作物残留」をテーマとして、1題の基調講演、6題の講演、8題の学生発表が行われた。参加者は136名であった。（24.10.18～19）
- (4) 農薬生物活性研究会（第29回）：東京農業大学（東京都世田谷区）で開催。特別講演2題、「開発や発見の経緯と評価法」をテーマに4題、「最近のトピック」をテーマに3題、合計8題の講演が行われた。（24.4.20）
- (5) 農薬デザイン研究会（第27回）：お茶の水ホテルジュラク（東京都千代田区）で開催。「未来へ向けた農薬デザイン」をテーマに4題の講演が行われたほか、ランチョンセミナー1件および22題のポスター発表が行われた。（24.11.8）
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会（第20回）：千葉市美浜文化ホール（千葉県千葉市）で開催。「食品安全のためのリスク評価の現状と課題」をテーマとして6題の講演が行われた。総合討論を含め活発な議論がなされた。（24.12.6）第37回日本農薬学会大会（岡山県岡山市）において「農薬の毒性評価とリスク・コ

ミュニケーションの最近の動向」をテーマとしたシンポジウムを共催した。（24.3.16）

- (7) 農薬バイオサイエンス研究会（第10回）：「農薬科学の将来を支える新技術・新知見」をテーマとしてシンポジウムを東京農業大学（東京都世田谷区）において開催した。昆虫・植物科学における最新の話を含む4題の講演が行われた。（24.12.4）

## 5) 学術小集会以外の研究会等

- (1) 構造活性フォーラム2012（後援）：京都府京都市（24.6.22）
- (2) 日本学術会議公開シンポジウム「新時代の昆虫科学を拓く3」（日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会、日本昆虫科学連合 主催）：東京都文京区（24.7.14）
- (3) 第15回国際分子植物微生物相互作用学会（協賛）：京都府京都市（24.7.29～8.2）
- (4) 第5回環太平洋農薬科学会議（IUPAC-BPSとの合同開催）：北京（24.9.15～20）
- (5) 第27回報農会シンポジウム（協賛）：東京都北区（24.9.25）
- (6) 第1回中国植物保護学会／国際植物保護科学会（CSPP/IAPPS）国際シンポジウム：北京（24.10.25～10.26）
- (7) 第29回製剤と粒子設計シンポジウム（協賛）：愛知県豊橋市（24.10.25～10.26）
- (8) 第16回日本バイオリジカルコントロール協議会講演会および第5回環境保全型農業シンポジウム 共催シンポジウム（後援）：宮城県仙台市（24.11.7）
- (9) 日本学術会議公開シンポジウム「植物保護におけるゲノム科学の利用」（日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会、植物保護科学連合主催）：東京都港区（24.11.13）
- (10) NIASシンポジウム ポストゲノム時代の害虫防除研究のあり方—第5回—（後援）：東京都千代田区（24.11.15）
- (11) 第10回エコバランス国際会議（協賛）：神奈川県横浜市（24.11.20～11.23）
- (12) 第40回構造活性相関シンポジウム（共催）：愛知県岡崎市（24.11.29～30）

## 4. 日本農薬学会賞受賞者選考委員会報告

### 1) 奨励賞、業績賞（研究、技術）

評議員ならびに学術小集会委員長より推薦された奨励賞2課題、業績賞（研究）1課題、業績賞（技術）3課題について慎重公正なる選考を行った結果、以下の5課題を各賞の候補と決定した。

【奨励賞】

堀田雄大氏（クミアイ化学工業株式会社）

「農薬補助剤のライフサイクルに關与する環境微生物の分子生態学的研究」

鈴木祐介氏（住友化学株式会社）

「蛍光分光法を用いたフェンバレーートの光励起ラジカル検出に關する研究」

【業績賞（技術）】

柳瀬勇次氏 勝田裕之氏 富谷完治氏 榎本 幹氏 坂本修氏（三井化学アグロ株式会社）

「新殺菌剤「ペンチオピラド」の研究開発」

藤田眞弘氏 飯島和昭氏（一般財団法人残留農薬研究所）

「農作物中の残留農薬濃度に關する変動要因の評価」

吉村 巧氏 池内利祐氏 大野修二氏 朝倉草平氏 濱田祐介氏（株式会社ケイ・アイ研究所，クミアイ化学工業株

式会社，イハラケミカル工業株式会社）

「新規水稻除草剤「ピリミスルファン」の研究開発」

2) 論文賞

編集委員会より推薦された論文について慎重公正なる審査を行い，候補を決定した。

「Fipronil resistance in *Sogatella furcifera*: Molecular cloning and functional expression of wild-type and mutant RDL GABA receptor subunits」

Toshifumi NAKAO, Masako HAMA, Nobuyuki KAWAHARA And Kangetsu HIRASE (Agrochemical Research Center, Mitsui Chemicals Agro, Inc.) Vol. 37, No. 1, pp. 37-44 (2012)

5. 平成25年度日本農薬学会賞および論文賞受賞者の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農薬学会賞各賞および論文賞候補について，評議員の投票により授賞が決定した。



## II 会計報告

### 収支計算書

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	18,037,000	18,411,473	△ 374,473	
正会員会費収入	9,080,000	9,360,000	△ 280,000	
学生会員会費収入	92,000	106,000	△ 14,000	
海外会員会費収入	105,000	98,973	6,027	
団体会員会費収入	910,000	890,000	20,000	
購読会員会費収入	350,000	456,500	△ 106,500	
維持会員会費収入	7,500,000	7,500,000	0	
会報刊行収入	1,700,000	1,671,571	28,429	
頒布収入	80,000	37,000	43,000	
広告料収入	420,000	545,000	△ 125,000	
著者負担金収入	1,200,000	1,089,571	110,429	
事業収入	17,499,000	21,494,756	△ 3,995,756	
大会運営収入	5,059,000	5,799,000	△ 740,000	
学術小集会運営収入	10,500,000	13,279,306	△ 2,779,306	
環境委員会 収入	1,940,000	2,416,450	△ 476,450	増補改訂版刊行
雑収入	115,000	134,388	△ 19,388	
預金利息収入	15,000	9,116	5,884	
雑収入	100,000	125,272	△ 25,272	
事業活動収入計	37,351,000	41,712,188	△ 4,361,188	
2. 事業活動支出				
会報刊行費支出	11,610,000	10,111,999	1,498,001	
旅費交通費支出	400,000	182,650	217,350	
通信運搬費支出	10,000	6,060	3,940	
消耗品費支出	100,000	88,159	11,841	
印刷製本費支出	8,000,000	7,731,982	268,018	
編集費支出	2,400,000	1,480,009	919,991	
学会誌送料支出	700,000	623,139	76,861	
総会・大会費支出	5,909,000	5,949,000	△ 40,000	
学術小集会費支出	11,250,000	14,798,028	△ 3,548,028	
環境委員会支出	2,720,000	3,151,684	△ 431,684	増補改訂版刊行
HP管理費支出	820,000	810,115	9,885	
学会賞関係費支出	500,000	430,540	69,460	
学術交流費支出	400,000	320,800	79,200	
国際学術交流費支出	1,500,000	1,520,000	△ 20,000	5th PPCSP 19名
試験研究補助金支出	1,000,000	1,000,000	0	2件採択
事業運営費支出	2,200,000	2,132,405	67,595	
会議費支出	700,000	647,521	52,479	
旅費交通費支出	1,500,000	1,484,884	15,116	
管理費支出	4,567,000	4,351,218	215,782	
旅費交通費支出	120,000	125,680	△ 5,680	
通信運搬費支出	400,000	409,223	△ 9,223	
消耗品費支出	300,000	196,848	103,152	
事務管理費支出	3,297,000	3,297,000	0	
印刷費支出	50,000	35,700	14,300	
雑支出	400,000	286,767	113,233	
事業活動支出計	42,476,000	44,575,789	△ 2,099,789	
事業活動収支差額	△ 5,125,000	△ 2,863,601	△ 2,261,399	

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	2,500,000	2,500,000	0	
積立調整基金口取崩収入	1,000,000	1,000,000	0	12月取崩
国際学術交流基金取崩収入	1,500,000	1,500,000	0	12月取崩
投資活動収入計	2,500,000	2,500,000	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	2,500,000	2,500,000	0	
III 財務活動収支の部				
当期収支差額	△2,625,000	△363,601	△2,261,399	
前期繰越収支差額	3,233,417	3,233,417	0	
次期繰越収支差額	608,417	2,869,816	△2,261,399	

### 収支計算書に対する注記

#### 1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、仮払金、未払金、前受金及び預り金を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

#### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	6,402,703	7,584,024
未収金	858,776	1,464,950
仮払金	2,754,911	1,110,900
合 計	10,016,390	10,159,874
未払金	0	1,161,798
前受金	6,782,973	6,124,260
預り金	0	4,000
合 計	6,782,973	7,290,058
次期繰越収支差額	3,233,417	2,869,816

貸借対照表

平成24年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	7,584,024	6,402,703	1,181,321
未収金	1,464,950	858,776	606,174
仮払金	1,110,900	2,754,911	△1,644,011
流動資産合計	10,159,874	10,016,390	143,484
2. 固定資産			
特定資産			
積立調整基金	13,224,379	14,224,379	△1,000,000
国際学術交流基金	13,885,042	15,385,042	△1,500,000
寄付基金	7,464,117	7,464,117	0
特定資産合計	34,573,538	37,073,538	△2,500,000
固定資産合計	34,573,538	37,073,538	△2,500,000
資産合計	44,733,412	47,089,928	△2,356,516
II 負債の部			
流動負債			
未払金	1,161,798	0	1,161,798
前受金	6,124,260	6,782,973	△658,713
預り金	4,000	0	4,000
流動負債合計	7,290,058	6,782,973	507,085
負債合計	7,290,058	6,782,973	507,085
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	37,443,354	40,306,955	△2,863,601
正味財産合計	37,443,354	40,306,955	△2,863,601
負債及び正味財産合計	44,733,412	47,089,928	△2,356,516

正味財産増減計算書

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	18,411,473	18,350,715	60,758
正会員会費	9,360,000	9,268,000	92,000
学生会員会費	106,000	144,000	△38,000
海外会員会費	98,973	110,715	△11,742
団体会員会費	890,000	970,000	△80,000
購読会員会費	456,500	358,000	98,500
維持会員会費	7,500,000	7,500,000	0
会報刊行収益	1,671,571	1,782,026	△110,455
頒布収益	37,000	83,500	△46,500
広告料収益	545,000	510,000	35,000
著者負担金収益	1,089,571	1,188,526	△98,955
事業収益	21,494,756	15,694,939	5,799,817
大会運営収益	5,799,000	1,478,069	4,320,931
学術小集会運営収益	13,279,306	13,311,870	△32,564
環境委員会収益	2,416,450	905,000	1,511,450
受取寄付金	0	500,000	△500,000
雑収益	134,388	105,488	28,900
預金利息	9,116	14,164	△5,048
雑収益	125,272	91,324	33,948
経常収益計	41,712,188	36,433,168	5,279,020
(2) 経常費用			
会報刊行費	10,111,999	11,305,459	△1,193,460
旅費交通費	182,650	408,950	△226,300
通信運搬費	6,060	15,130	△9,070
消耗品費	88,159	113,054	△24,895
印刷製本費	7,731,982	7,641,071	90,911
編集費	1,480,009	2,386,568	△906,559
学会誌送料	623,139	740,686	△117,547
総会・大会費	5,949,000	1,567,855	4,381,145
学術小集会費	14,798,028	12,146,526	2,651,502
環境委員会	3,151,684	785,829	2,365,855
HP管理費	810,115	781,115	29,000
学会賞関係費	430,540	300,370	130,170
学術交流費	320,800	322,700	△1,900
国際学術交流費	1,520,000	150,000	1,370,000
試験研究補助費	1,000,000	450,000	550,000
事業運営費	2,132,405	2,088,890	43,515
会議費	647,521	439,474	208,047
旅費交通費	1,484,884	1,649,416	△164,532

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	4,351,218	4,746,912	△ 395,694
旅費交通費	125,680	14,647	111,033
通信運搬費	409,223	345,932	63,291
消耗品費	196,848	245,326	△ 48,478
事務管理費	3,297,000	3,529,000	△ 232,000
印刷費	35,700	42,000	△ 6,300
雑費	286,767	570,007	△ 283,240
経常費用計	44,575,789	34,645,656	9,930,133
当期経常増減額	△ 2,863,601	1,787,512	△ 4,651,113
(2) 経常外費用			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,863,601	1,787,512	△ 4,651,113
一般正味財産期首残高	40,306,955	38,519,443	1,787,512
一般正味財産期末残高	37,443,354	40,306,955	△ 2,863,601
II 指定正味財産増減の部			
III 正味財産期末残高	37,443,354	40,306,955	△ 2,863,601



財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	14,224,379	0	1,000,000	13,224,379
国際学术交流基金	15,385,042	0	1,500,000	13,885,042
寄付基金口	7,464,117	0	0	7,464,117
合 計	37,073,538	0	2,500,000	34,573,538

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
積立調整基金口	13,224,379	(0)	(13,224,379)	(0)
国際学术交流基金	13,885,042	(0)	(13,885,042)	(0)
寄付基金口	7,464,117	(0)	(7,464,117)	(0)
合 計	34,573,538	0	(34,573,538)	(0)

財 産 目 録

平成24年12月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	7,584,024
現金手許有高	329,589
普通預金	5,424,376
	三井住友銀行白山支店 3,443,840
	ジャパンネット銀行 1,380,582
	CITIBANK 598,725
	三井住友銀行白山支店 1,229
振替貯金	1,830,059
未収金	1,464,950
仮払金	1,110,900
総会・大会	850,000
編集事務局	17,403
農薬製剤施用法研究会	150,000
農薬生物活性研究会	14,245
農薬デザイン研究会	78,752
デポジット料金	500
流動資産合計	10,159,874
2. 固定資産	
特定資産	
積立調整基金	13,224,379
定期預金	
三井住友銀行白山支店	13,224,379
国際学術交流基金	13,885,042
定期預金	
三井住友銀行白山支店	13,885,042
寄付基金	7,464,117
定期預金	
三井住友銀行白山支店	6,964,117
ジャパンネット銀行	500,000
特定資産合計	34,573,538
固定資産合計	34,573,538
資産合計	44,733,412
II 負債の部	
流動負債	
未払金	J-stage 文献登録料金他 1,161,798
前受金	6,124,260
正会員会費	6,066,000
学生会員会費	30,000
海外会員会費	8,260
団体会員会費	20,000
預り金	4,000
流動負債合計	7,290,058
負債合計	7,290,058
正味財産	37,443,354

### III 会計監査報告

平成24年度日本農薬学会の事業報告および決算について監査の結果、的確であることを認めます。

平成25年2月28日

監事 千野 義彦 印  
竹内 安智 印

### IV 議事

度), 講師派遣(数名)を予定

#### 1. 平成24年度事業報告および決算の承認

#### 2. 平成25年度事業計画および収支予算(案)

- 1) 会誌の発行: 日本農薬学会誌 第38巻, 第1号~第2号  
Journal of Pesticide Science誌 第38巻,  
第1号~第4号

- 2) 第38回大会の開催: 25.3.14~16, 筑波大学(茨城県つくば市)

#### 3) 日本農薬学会賞および論文賞の授与

#### 4) 専門委員会の開催

- (1) 編集委員会
- (2) 常任編集委員会
- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 第39回大会組織委員会
- (6) 将来計画委員会
- (7) 環境委員会
- (8) HP委員会
- (9) 農薬科学研究補助金交付者審査会議(一次および二次)

#### 5) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー 2013を開催予定(2回程度)
- (2) 残留農薬分析Q&Aセミナーの開催: 第1回目を東京家政大学(東京都板橋区, 25.3.22)で開催。その他1~2回程度開催予定(開催地および日時未定)
- (3) 農薬の安全性に関するセミナーの開催(1~2回程度)

#### 6) 学術小集会, 講演会等の開催

- (1) 農薬残留分析研究会: 第36回(秋田県秋田市, 25.10.24~25)
- (2) 農薬製剤・施用法研究会: 第33回(静岡県静岡市, 25.9.12~13)  
第38回日本農薬学会大会において「農薬製剤・施用法の歩みと今後の展望」をテーマとしたシンポジウムを共催。(茨城県つくば市, 25.3.16)
- (3) 農薬環境科学研究会: 第31回(滋賀県, 25.11.21~22)
- (4) 農薬生物活性研究会: 第30回記念シンポジウムを東京農業大学(東京都世田谷区)において開催。(25.4.19)
- (5) 農薬デザイン研究会: 第28回(開催地および日時未定)
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会: 第21回シンポジウム(開催地は東京都, 日時未定)
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会: 第11回シンポジウムを12月に開催予定(開催地および詳細日時未定)

#### 7) 農薬科学研究補助金の交付

農薬科学研究に対する研究補助金(1件50万円)を平成25年度は以下の2件の研究に対し交付する予定である。

- (1) 山本幸治氏(九州大学大学院): ステロイド還元酵素構造情報を礎とした昆虫成長阻害剤の創製基盤
- (2) 春原由香里氏(筑波大学生命環境系): オーキシシン型除草剤キンクロラックの作用機構の解析

8) 平成25年度収支予算(案)

平成25年1月1日から平成25年12月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	17,674,000	18,037,000	△363,000	
正会員会費収入	8,744,000	9,080,000	△336,000	会員減
学生会員会費収入	102,000	92,000	10,000	
海外会員会費収入	108,000	105,000	3,000	
団体会員会費収入	870,000	910,000	△40,000	
購読会員会費収入	350,000	350,000	0	
維持会員会費収入	7,500,000	7,500,000	0	
会報刊行収入	1,360,000	1,700,000	△340,000	
頒布収入	40,000	80,000	△40,000	
広告料収入	320,000	420,000	△100,000	5社
著者負担金収入	1,000,000	1,200,000	△200,000	
事業収入	20,820,000	17,499,000	3,321,000	
大会運営収入	5,600,000	5,059,000	541,000	
学術小集会運営収入	12,270,000	10,500,000	1,770,000	
環境委員会収入	2,950,000	1,940,000	1,010,000	残留農薬分析Q&Aセミナーの充実
雑収入	110,000	115,000	△5,000	
預金利息収入	10,000	15,000	△5,000	
雑収入	100,000	100,000	0	
事業活動収入計	39,964,000	37,351,000	2,613,000	
2. 事業活動支出				
会報刊行費支出	10,860,000	11,610,000	△750,000	
旅費交通費支出	250,000	400,000	△150,000	
通信運搬費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費支出	100,000	100,000	0	
印刷製本費支出	8,000,000	8,000,000	0	
編集費支出	1,800,000	2,400,000	△600,000	
学会誌送料支出	700,000	700,000	0	
総会・大会費支出	6,450,000	5,909,000	541,000	
学術小集会費支出	12,490,000	11,250,000	1,240,000	
環境委員会支出	2,410,000	2,720,000	△310,000	残留農薬分析Q&Aセミナーの充実
HP管理費支出	2,800,000	820,000	1,980,000	会員システム, Web選挙システム構築
学会賞関係費支出	1,000,000	500,000	500,000	
学術交流費支出	400,000	400,000	0	
国際学術交流費支出	500,000	1,500,000	△1,000,000	新年度海外での関係学会少
試験研究補助金支出	1,000,000	1,000,000	0	
事業運営費支出	2,200,000	2,200,000	0	
会議費支出	700,000	700,000	0	
旅費交通費支出	1,500,000	1,500,000	0	
管理費支出	4,360,000	4,567,000	△207,000	
旅費交通費支出	100,000	120,000	△20,000	
通信運搬費支出	400,000	400,000	0	

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
消耗品費支出	200,000	300,000	△100,000	
事務管理費支出	3,310,000	3,297,000	13,000	事務分担の日植防への支払い
印刷費支出	50,000	50,000	0	
雑支出	300,000	400,000	△100,000	
事業活動支出計	44,470,000	42,476,000	1,994,000	
事業活動収支差額	△4,506,000	△5,125,000	619,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	3,000,000	2,500,000	500,000	
積立調整基金口取崩収入	2,500,000	1,000,000	1,500,000	
国際学術交流基金取崩収入	500,000	1,500,000	△1,000,000	
投資活動収入計	3,000,000	2,500,000	500,000	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	3,000,000	2,500,000	500,000	
III 財務活動収支の部				
当期収支差額	△1,506,000	△2,625,000	1,119,000	
前期繰越収支差額	2,869,816	3,233,417	△363,601	
次期繰越収支差額	1,363,816	608,417	755,399	

## 9) その他

### 3. 名誉会員の承認および終身会員・顧問の推薦

#### 1) 名誉会員の承認

会則第7条1項により、安部浩氏、松村文夫氏、中津川勉氏、榎橋敏夫氏、西村勁一郎氏、大川秀郎氏、若林攻氏、山口 勇氏を名誉会員に推挙する。

#### 2) 終身会員の推薦

会則第7条2項により、岩本毅氏、鈴木敏雄氏、上野民夫氏を終身会員に推薦し、評議員会において承認された。

#### 3) 顧問の推薦

会則第16条により、上路雅子氏、梅津憲治氏、米山勝美氏を顧問に指名し、評議員会において承認された。

### 4. 日本農薬学会第39回大会（平成26年）

第39回大会を平成26年3月13～15日に京都大学（京都市）において開催する。

### 5. その他

#### 会 員 異 動

（平成24年11月16日～平成25年2月28日）

#### 入 会

#### 正会員

丸井 沙織	朝間 由香	藤吉 智治	浦山 俊一
山岸 由和	犬飼 佳代	草苺 啓	富谷 完治
坂本 修	松野 倫也	高久 朋之	野澤 清史
佃 晋太郎	小野 大騎	佐々木 太洋	兼松 慧
村田 哲也	塩田 隆之	赤川 弘明	山本 一美
佐藤 敦	岡崎 亮	齊藤 正一	武内 晴香
重成 俊彦	小林 政文	神長 聡子	宮本 直美
飯塚 智美	天野 裕太	林 寛之	小林 優太
西 甲介	穀野 学	黒滝 美音子	碓井 真知子
不破 朝成	永井 宏幸	井口 智義	



#### 学生会員

長峯 啓佑 劉 根炎 若林 孝俊 藤井 裕城  
設楽 研司 大谷 知弘 中根 権人  
YOON, Jung-Min 岩川 純也 大西 敦子  
野村 和希 玄 大雄 金 容賢 横井 大洋  
田栗 知憲

#### 海外会員

Wiboon, CHONGRA

#### 団体会員

ライオン株式会社

(受付順)

#### 退会

#### 終身会員

松村 文夫 小平 祐

#### 正会員

足立 典子 亀崎 宏樹 川田 文子 尾井 睦夫  
多田 功 箭木 昭 小池 安比古 井上 浩輔  
波多野 和樹 林 昌平 堀江 重男 笠原 勇  
工藤 正毅 河村 将和 佐貫 淳 前田 光紀  
東海林 敏子 村井 政彦 前田 義徳

#### 学生会員

兒玉 典子

#### 団体会員

名古屋大学附属図書館

### 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ 改定3版2012」出版のご案内

日本農薬学会では、2003年に、精度の高い残留分析を実施する上で特に配慮すべき事項を取りまとめ、「Q&A」形式による「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版し好評を博しました。次いで2005年には、2006年5月のポジティブリスト制度の施行に伴い、多成分分析法やLC/MS/MSの導入など、新たな分析法が追加されることに対応するため、改訂第2版2005を出版しました。

第2版出版からすでに7年が経過し、この間、残留農薬基準はポジティブリスト制移行後、基準値の見直しが進み、暫定基準が本来の残留基準あるいは一律基準という形に変わりつつあります。残留農薬基準に伴う、残留農薬分析法も拡充され、より多くの農薬に対応するようになりました。このような中で、以前にも増して精度の高い残留農薬分析の必要性が高まってきています。そのため、これまでの「Q&A」を見直し、大幅に追加・加筆した改訂版を出版いたしました。残留農薬分析に関係する方の必携本として活用していただければ幸いです。

なお、定価は2,500円です（送料別）。

#### 購入申込み方法：

メールまたはFAXにて、以下の日本農薬学会事務局に氏名、所属、メールアドレス、電話番号、送付先住所、購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい。また、メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので、振込みをお願いします。

日本農薬学会事務局

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

TEL: 03-5980-0281 FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp

#### 会員情報の点検と更新のお願い

学会ホームページでご利用いただける会員情報サービスシステムの新バージョンの運用が3月より開始されました。つきましては、学会にご登録いただいている会員情報（所属、住所、電話番号、E-mailアドレス等）が正しいか、ご確認ください。会員情報は学会ホームページ（<http://pssj2.jp>）の「会員専用/会員情報サービス」（<https://service.dynacom.jp/acpartner/pssj/>）からアクセスできます。なお、ログインには、会員番号およびパスワードが必要です。会員番号は学会からの郵便物（学会誌の送付時等）の宛名書に併記されていますので、ご確認ください。また、パスワードがご不明の場合はログインページの「パスワードをお忘れの方はこちらへ」に従ってお進み下さい。

全ての会員の皆様へ以下のご確認をお願いします。

1. 上記URLからログインして「会員情報の変更」ボタンから進み「会員情報の変更—入力」ページに記載されている各自の会員情報をご点検下さい。
2. 事務局等からの連絡や情報提供をタイムリーに行う「お知らせメール」受信のため、可能な限り次の設定をお願いします。「会員情報の変更—入力」ページの「個人情報」欄の「E-mailアドレス」項にご入力のうえ、「E-mail配信可否」には「希望する」を選択して下さい。
3. 会員間での連絡に利用するため、少なくとも「所属機関」や「E-mailアドレス」等、公開可能な範囲で「会員名簿掲載可否」欄を【可】に設定して下さい。

#### 学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催、共催、協賛する会議等

2013年

6月

19日(水)~21日(金) 日本土壤微生物学会2013年度大会  
主 催: 日本土壤微生物学会  
会 場: 東京農工大学農学部 [〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8]  
U R L: <http://www.tuat.ac.jp/~sm2013/index.html>

28日(金) 構造活性フォーラム2013

主 催: 日本薬学会構造活性相関部会  
協 賛: 日本農薬学会等  
会 場: 理化学研究所横浜研究所交流棟ホール [〒230-0045 神奈川県横浜市鶴見区末広町1-7-22]  
U R L: [http://www.yokohama.riken.jp/sbddteam/sarforum\\_2013/](http://www.yokohama.riken.jp/sbddteam/sarforum_2013/)

6月~7月(日程, 会場詳細未定) 残留農薬分析Q&Aセミナー

主 催: 日本農薬学会  
会 場: 大阪地区  
詳細は決まり次第, 学会ホームページ (<http://pssj2.jp/calendar/thisyear.html>) でご案内いたします。

7月

21日(日)~24日(水) 40th Annual Meeting & Exposition of the Controlled Release Society  
主 催: Controlled Release Society  
会 場: Hawaii Convention Center (米国, ハワイ)  
U R L: <http://www.controlledreleasesociety.org/meetings/annual/Pages/default.aspx>

8月

19日(月)~22日(木) 9th Symposium of International Working Group of Plant Viruses with Fungal Vectors (IWGPVFFV)  
主 催: IWGPVFFV  
会 場: 北海道ホテル [〒080-0017 北海道帯広市西7条南19-1]  
U R L: <http://pssj2.jp/calendar/thisyear.html>

9月

2日(月)~4日(水) 10th International Symposium on Agglomeration  
会 場: 神戸学院大学 [〒650-8586 兵庫県神戸市中央区港島1-1-3]  
U R L: <http://www.pharm.kobegakuin.ac.jp/~seizai/Agglos10.html>

12日(木)~13日(金) 第33回農薬製剤・施用法研究会  
主 催: 日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会  
会 場: 静岡県コンベンションセンター/グランシップ [〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4]  
U R L: <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai33.html>

26日(木) 第28回報農会シンポジウム 『植物保護ハイビジョンー2013』生産環境の変化と作物保護技術の再評価  
主 催: 公益財団法人 報農会  
協 賛: 日本農薬学会他  
会 場: 北とぴあ つつじホール [〒114-8503 東京都北区王子1-11-1]  
U R L: <http://www.honokai.org/>

10月

17日(木)~18日(金) 第30回製剤と粒子設計シンポジウム  
主 催: 粉体工学会・製剤と粒子設計部会  
協 賛: 日本農薬学会等  
会 場: 岐阜都ホテル [〒502-0817 岐阜県岐阜市長良福光2695-2]  
U R L: <http://pssj2.jp/calendar/thisyear.html>

22日(火)~24日(木) 34th Symposium on Pesticide Formulation and Delivery Systems  
会 場: Hyatt Regency Jacksonville Riverfront (米国, フロリダ州)  
U R L: <http://www.astm.org/SYMPOSIA/>

24日(木)~25日(金) 第36回農薬残留分析研究会  
主 催: 日本農薬学会 農薬残留分析研究会  
会 場: 秋田市

11月

7日(木)~8日(金) 第41回構造活性相関シンポジウム  
主 催: 日本薬学会構造活性相関部会  
協 賛: 日本農薬学会等  
会 場: 関西学院会館 [〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155]  
U R L: <http://sar2013.dm-lab.info/>

8日(金) 第28回農薬デザイン研究会  
主 催: 日本農薬学会 農薬デザイン研究会  
会 場: メルパルク京都 [〒600-8216 京都府京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-13]  
U R L: <http://pssj2.jp/committee/design/design28.html>  
テーマ: 「21世紀を担う農薬をデザインする~そのヒントを求めて」

21日(木)～22日(金) 第31回農薬環境科学研究会

主催：日本農薬学会 農薬環境科学研究会  
会場：滋賀県

12月

第11回農薬バイオサイエンス研究会

主催：日本農薬学会 農薬バイオサイエンス研究会  
日程、会場等の詳細は未定

2014年

3月

13日(木)～15日(土) 第39回日本農薬学会大会

主催：日本農薬学会  
会場：京都大学  
URL：<http://pssj2.jp/calendar/nextyear.html>

8月

10日(日)～14日(木) 第13回国際農薬化学会議 (13th IUPAC International Congress of Pesticide Chemistry)

主催：IUPACおよびACS-AGRO  
会場：San Francisco Marriott Marquis (米国, カリフォルニア州サンフランシスコ)  
URL：<http://www.iupac2014.org/>

9月

11日(木)～12日(金) 第34回農薬製剤・施用法研究会

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会  
会場：神戸国際会議場国際会議室 [〒850-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1]  
URL：<http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai34.html>

学会主催会議等の詳細

第33回農薬製剤・施用法研究会

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会  
協賛：農薬機械学会, 日本雑草学会, 紛体工学会, 日本化学会, 高分子学会, 色材協会, 日本油化学会 (予定)  
日時：平成25年9月12日(木)～13日(金)  
会場：静岡県コンベンションセンター／グランシップ [〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4]  
TEL: 054-203-5710 FAX: 054-203-5716 (代表)  
<http://www.granship.or.jp/>  
定員：250名  
URL：<http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai33.html>  
プログラム：  
9月12日(木) 13:00～17:00

特別講演-1 「Low Loss Crop Protection—A System for More Efficiency and Safety in Pesticide Application in Top Fruit and Vines」 Peter Triloff (Marktgemeinschaft Bodenseeobst, Germany)

技術研究発表-1 講演時間1件当たり15分

特別講演-2 「The Relationship of Nozzle Parameters, Droplet Characteristics and Relative Spray Drift of The Air Inclusion Nozzle Using in Japan」 Bai Geng (白 更) (Agricultural Department, Niigata University, Niigata, Japan)

特別講演-3 「我が国における農薬散布機の現状と今後の展望」 宮原佳彦 ((独) 農業・食品産業総合技術研究機構)

ポスターセッション

懇親会 18:00～20:00

9月13日(金) 9:00～16:00

特別講演-4 「The Role of Pesticide Liquid Physical Properties in The Optimisation of Spray Performance for Efficient Atomisation, Retention and Targeting in Row, Tree and Vine Crop Spraying」 Andrew J. Hewitt (Lincoln University, Christchurch, New Zealand)

技術研究発表-2 講演時間1件当たり15分

特別講演-5 「環境省における農薬の大気経路による影響評価について」 伊澤 航 (環境省水・大気環境局農薬環境管理室), 芳賀俊郎 (農林水産航空協会)

技術研究発表-3 講演時間1件当たり15分

参加申込み：

1) 参加申込み方法

所定の「参加申込書」を研究会ホームページ (<http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai33.html>) からダウンロードし、所属、氏名(フリガナ)、連絡先等の必要事項を明記の上、平成25年6月14日(金)までにE-mail、ファックスまたは郵送で下記にお申込み下さい。(参加者名簿の誤植を防止するうえで可能な限り電子ファイルでの送信をお願い致します)。なお、発送事務等の省力化のため、会社・事業所・研究機関等の単位で代表者が取りまとめる上、一括してお申込み下さるようお願い致します。

大会運営の都合上定員(250名)になり次第、締め切らせていただきますのでお早目の申込みをお願いします。申込み期限を過ぎますと、早期割引料金が適用されませんので、ご注意ください。

シンポジウム参加申込：

申込み先：竹本油脂株式会社 第四事業部 研究開発部内

第33回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局  
参加申込み担当  
近藤 勝義（コンドウ カツヨシ）宛  
〒443-8611 愛知県蒲郡市港町2番5号  
TEL: 0533-68-2113 FAX: 0533-68-1461  
E-mail: seizai33@tkc.takemoto.co.jp

## 2) 参加費

### (1) 6月14日までに申込みの早期割引料金

①日本農薬学会及び協賛学会（協会）会員の場合  
17,000円（内研究会費12,000円，懇親会費5,000円）

②上記学会の会員でない場合：  
18,000円（内研究会費13,000円，懇親会費5,000円）

### (2) 6月15日～当日参加申込みの通常料金

21,000円（内研究会費16,000円，懇親会費5,000円）

なお、一日のみの参加、及び、懇親会の参加有無にかかわらず、参加費は一律（研究会費+懇親会費）です。

## 3) 参加費振込

参加申込み後は、下記振込み口座に参加費をお早めに振込み頂きますようお願い致します。なお、一度振込まれました分は返金できませんのであらかじめご了承下さい。入金確認後に、折返し参加確認および参加費振込確認書を送付致します。[参加申込書]（研究会ホームページからダウンロード）にてお受け取り方法（E-mail、郵送又はFAX）をご指定ください。なお、参加申込み、入金確認書をもって領収書とさせていただきます。

振り込み先：三菱東京UFJ銀行駒込支店（店番号061）  
普通 口座番号：0020365  
口座名：農薬製剤施用法研究会（ノウヤクセイザイセヨウハウケンキユウカイ）

## 技術研究発表申込み：

技術研究発表（ポスターセッションを含む）は農薬製剤・施用法全般に関するものとします。

技術研究発表：15分間のプレゼンテーション，5分間の質疑応答  
ポスターセッション：5分間のショートプレゼンテーションの後，ポスター展示にて行います。

発表を希望される方は、希望発表形式（口頭あるいはポスター）、演題、発表者、所属等を所定の[申込用紙]（研究会ホームページからダウンロード）にご記入の上、6月14日（金）までにE-mail、ファックスまたは郵送で下記にお申込み下さい。また、発表希望者は[技術研究発表要領]（研究会ホームページからダウンロード）により作成した発表要旨を7月12日（金）までにメールで送付して下さい。なお、技術研究発表・ポスターセッションを希望される方も別途参加申込みが必要となります。前項「参加申込み」に従って手続きをお願いします。

## 技術研究発表・ポスターセッションの申込：

送付先：日本曹達株式会社 小田原研究所 製剤研究部内  
第33回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局  
鈴木 雅博（スズキ マサヒロ）宛  
〒421-0421 静岡県牧之原市坂部62-1  
TEL: 0548-29-0611 FAX: 0548-29-0631  
E-mail: oda-formulation@nippon-soda.co.jp

## 宿泊等：

事務局での宿泊手配は行っておりません。ご出席の皆様各自にてホテル等ご予約をお願い致します。また、2日目の昼食は、事務局が弁当を用意いたします。

## 事務局：

[シンポジウム全般に係わるお問合せ]  
クミアイ化学工業株式会社 製剤技術研究所内  
第33回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局  
藤田 茂樹（フジタ シゲキ）宛  
〒424-0053 静岡県静岡市清水区渋川100番地  
TEL: 054-345-3163 FAX: 054-346-3284  
E-mail: seizaiseyoho33@kumiai-chem.co.jp

## [参加申込、参加費に関するお問合せ]

竹本油脂株式会社 第四事業部 研究開発部内  
第33回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局 参加申込み担当  
近藤 勝義（コンドウ カツヨシ）  
〒443-8611 愛知県蒲郡市港町2番5号  
TEL: 0533-68-2113 FAX: 0533-68-1461  
E-mail: seizai33@tkc.takemoto.co.jp

## [技術研究発表・ポスターセッションに関するお問合せ]

日本曹達株式会社 小田原研究所 製剤研究部内  
第33回農薬製剤・施用法シンポジウム事務局  
鈴木 雅博（スズキ マサヒロ）  
〒421-0412 静岡県牧之原市坂部62-1  
TEL: 0548-29-0611 FAX: 0548-29-0631  
E-mail: oda-formulation@nippon-soda.co.jp

## 発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10  
一般社団法人日本植物防疫協会内  
TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282  
E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp